

～令和6年度認知症予防事業～

認知症にならないためには、日頃から予防を意識して生活することが大切だと書かれています。

毎日を楽しく生き活きと過ごし、いくつになっても自立した生活がおくれるように、地域の皆さんと一緒に認知症予防に取り組んでいきましょう。

開催場所 ふれあいセンターかがやき 1階 多目的室1

日時 2月17日(月)・3月24日(月) 午後1時30分～3時00分

持ち物 汗拭きタオル・水分補給用(水、麦茶等)・筆記用具

内容

- ・認知症という病気について学ぶ
- ・リズムに合わせて簡単にでき毎日続けていける体操
- ・脳を活性化するトレーニング
- ・懐かしいメロディーののってリラクゼーション など

申し込み 1月6日(月)から電話にて受付いたします。(先着25名)
松伏町社会福祉協議会 048-991-2700



「介護者のつどい」のご案内

- 認知症や障がいのある方を介護している方なら、どなたでも参加できます。
- 在宅介護、施設介護、遠距離介護など、介護の在り方は問いません。
- 認知症等の人を介護する方向士がお互いに話し合い、耳を傾けあう場です。
- ひとりで悩まず、ここであなたの思いを話してみませんか

日時 令和7年2月15日(土) 午前10時～11時30分
場所 松伏町ふれあいセンターかがやき 1階 多目的室1
対象 認知症や障がい者を介護している方、ケアラー、家族
内容 認知症や障がいのことを一人で悩まず思いを語りましょう。
協力 南部地域包括センター・北部地域包括センター

生活支援コーディネーター通信 第2号

今号は、松伏町内の地名話を徒然なるままに…。

築比地上地区登戸…「のぼりと」ではなく、「のぼつと」と読むそうです。

築比地上地区馬場…「ばば」ではなく、「ばんば」
松伏地区砂場…「すなば」でなく、「すなっぱ」
築比地は「つきひじ」でなく、「ついひじ」等々。

考えれば考えるほど、わからなくなりそう。ムズカシイ。

しかし、よく見ればこれは言葉の「音便化」。日本語学の領域ですが、簡単に言うと発音のしにくい音が発音しやすく変化しているということ。先人の知恵でしょう。徐々に、自分たちの地域の言葉としてすっかり定着していったのかなと、遠く思いを馳せてしまいます。もし違っていたら、ごめんなさいですが。

社協職員になった何年も前のこと。

大川戸地区に本田があると思えば、金杉地区にも本田上・中・下とあり、最初は随分と混乱したものでした。

私は、町外の友人に「松伏町在住です。」言って、「えっ、まつぶせ?」と言われると明らかに腹が立つ。まさに松伏町民だと思います。そして内前野在住のためか、かつてあった外前野が消えた時、寂しい気持ちを持った住民の一人でした。「外と内の違いは何だろう?」と考えたこともあります。

地名・町名にはその土地を表す由来が潜んでいます。そこに思いを馳せることは、その土地を愛することに通じると思っています。

新たな年に、松伏町の地名に思いを馳せてみませんか。町民であることに誇りを持って!

【お問合せ】 松伏町社会福祉協議会
生活支援コーディネーター 乙坂
電話048-991-2700